

## ネパール・ルンビニ地域における遺跡と周辺地域の現状と課題

## - アジアの途上国における文化遺産保全に関する研究 その2 -

正会員 ○森 朋子 \*1

同 黒瀬 武史 \*2

同 西村 幸夫 \*3

保全 世界文化遺産 バッファゾーン  
ユネスコ ルンビニ 途上国

## 1. はじめに

1997年に世界文化遺産に登録された仏教4大聖地の一つであるネパール・ルンビニの周辺地域には、暫定リストにある2つの遺跡の他にも、多数の遺跡が散在している。本稿は、ブッダが出家前に生活したシャカ王国の城跡とされるティラウラコットが位置するカピラバスツ郡を事例に、保全の観点から、①遺跡と②遺跡の周辺地域の現状と課題について、現地調査およびヒアリング調査に基づき報告する。なお、本研究は、筆者らが取組む日本政府ユネスコ信託基金によるルンビニ地域<sup>1)</sup>の統合的マネジメントプラン策定プロジェクト(フェーズ2)<sup>2)</sup>の成果の一部で、前稿<sup>3)</sup>に続き、途上国における文化遺産の保全のあり方を展望するものである。

## 2. カピラバスツ郡の遺跡

## 2-1. これまでの調査と管理状況

ルンビニ地域にある遺跡に関する調査は、近代に入りルンビニのアショカピラーを再発見したと言われるFührerに遡る。調査時期に偏りがあるが、続けられてきたことがわかる(表1)。しかし、文化財を掌る考古局は、遺跡の正確な位置・内容さらにリストも整理されていない。最新の遺跡調査は、1997年にイタリアチームによって行われた調査である。また、1993年にJICAの支援により発行された1/25,000の地形図が最新のもので、測量局によれば、更新の計画もないとのことであった。

表1. ルンビニ地域の遺跡調査年表(文献より筆者ら作成)

年	調査者とその出身国
1896	Anton Führer <sup>4)</sup> (ドイツ)
1899	Purna Chandra Mukherji <sup>5)</sup> (インド)
1962	Debala Mitra <sup>6)</sup> (インド)
1972	Baku Krishna Rijal <sup>7)</sup> (ネパール)
1977	Tara Nanda Mishra <sup>8)</sup> (ネパール)
1997	Giovanni Verardi <sup>9)</sup> (イタリア)

## 2-2. LDT管理下にある遺跡

国連のルンビニ開発計画に伴い、1985年、ルンビニ開発公団(LDT)が法令により設立された。LDTは、ルンビニの他、ルンビニ地域の主要遺跡の保存管理も担っており、カピラバスツ郡では、暫定リストにあるティラウラコットを含む7ヶ所の遺跡を管理している。

## 2-3. その他の遺跡

筆者らは、2015年1月20日から2月10日の間、現地に滞在し、1997年のイタリアチームの調査結果(116ヶ所の遺跡リスト)に基づきカピラバスツ郡の遺跡を対象に、現地考古学者らとGPS(Global Positioning System)を用いた記録調査を行った。考古局管理下の遺跡(19ヶ所)や、調査で新たに見つけた遺跡を加えたところ、合計136ヶ所の遺跡が確認された(図1)。考古局は、カピラバスツ博物館に1名常駐させているが、遺跡の管理は行っておらず、住民がフェンスを壊し耕作地化するなど、ほぼ全ての遺跡は破壊されていた。考古局管理下の遺跡であっても、土地所有は個人に帰属するものも多く、国による買取りも行われているが、時間を要し費用の問題も大きい。認識すらされていない遺跡が、大半を占める。



図1. カピラバスツ郡の遺跡(筆者ら作成)

Current conditions and issues of the cultural heritage sites and their surroundings in Greater Lumibini, Nepal: study on the cultural heritage conservation in the developing countries in Asia, part 2

MORI Tomoko, KUROSE Takefumi, NISHIMURA Yukio

### 3. 遺跡周辺地域の現状

#### 3-1. 地方自治体 (Municipality : 市)による規制

1999年、地方自治法(Local Self-Governance Act)が制定され、ネパールでは郡: DDC (District Development Committees)、その下の市: Municipalities と村: VDC(Village Development Committees)に限定的ではあるが、自治権が与えられている。特に、市には土地利用や開発に関する計画策定が要求されている。

本研究は、ティラウラコットが位置するカピラバスツ市に、その内容をヒアリング調査した。基本的には、土地利用計画に基づくゾーニングと、接道義務・接道要件及び建築の階数・高さ制限である。ティラウラコットといった世界遺産暫定リストにある遺跡を有する市だけあり、ティラウラコット、クダンとその周辺地域に保全ゾーン(図2、紫色部分)を設定し、自主的に1階建てかつ高さ4mに制限している点(図3)は、特筆に値する。

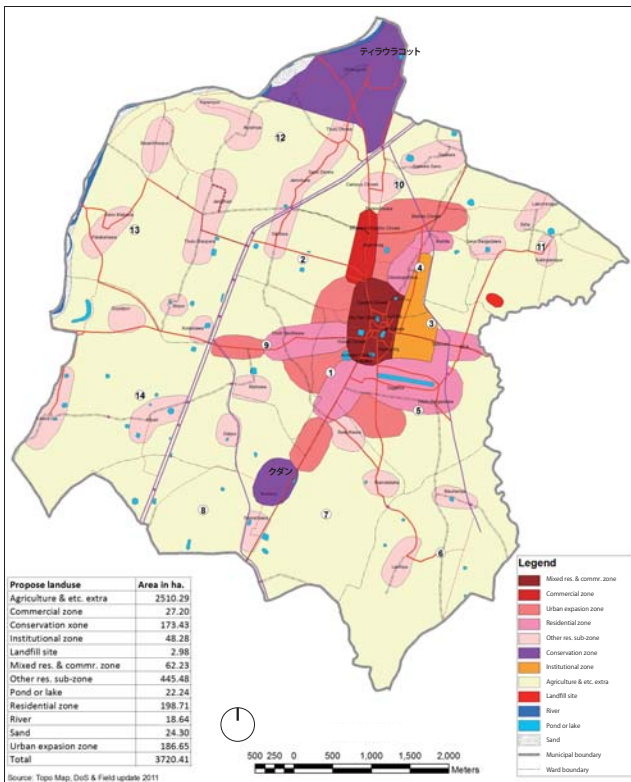


図2. 土地利用計画図(カピラバスツ市5年計画<sup>10)</sup>より抜粋)

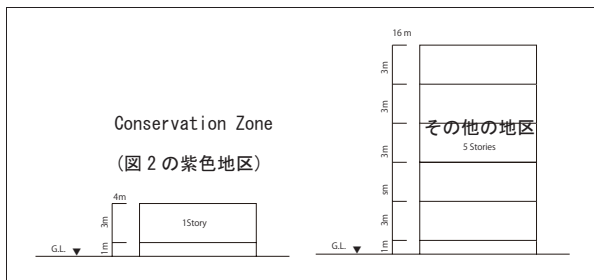


図3. カピラバスツ市の高さ規制(ヒアリングから筆者ら作成)

#### 3-2. その他の地域 (VDC: 村)

市に比べ、VDCはその権限が限られ、土地利用計画や開発に関する計画策定は要求されていない。一方で、住民の土地建物の売買については、VDCの許可が必要であることをヒアリングから知り得た。現在、売買を伴わない開発行為は、無制限の状況にあると言える。

#### 3-3. VDCから市への移行化

2014年、VDCの統合等によりMunicipality化が多く行われた。カピラバスツ郡もカピラバスツ市がVDCを取り込み拡大し、郡北東部にはバンガンガ市が新設された(図1)。前項の通り、Municipalityには、土地利用や開発に関する計画策定が要求される。これにより、ルンビニ地域において、一定の開発制限を課せられる面積が拡大したと言える。これを機に、カピラバスツ市の保全ゾーンをモデルとする、さらなる保全強化が期待される。

### 4. 今後の展望

以上、ルンビニ地域カピラバスツ郡を事例に、保全の観点から遺跡と周辺地域の現状を見てきた。大半の遺跡は、保存管理が行き届かず、放置されている状況である。まずは、考古局による遺跡の実態把握と、登録制度などを導入した文化財としての価値付けと保護が喫緊の課題である。今後、本調査で知り得た情報のデータベース化と、GIS (Geographic Information System) 上で位置情報を整理し、ユネスコによる統合的マネジメントプラン策定が引き続き進められる。しかし、主体は自国であり、考古局や自治体など関連部署の連携を促し、地域住民に主眼を置いた地域保全計画策定を目指す予定である。

#### 【補注】

- 1) ルンビニ地域とは、世界遺産ルンビニの位置するルンデヒ郡と、暫定リストにあるティラウラコット、ラマグラマ夫々が位置するカピラバスツ郡、ナワルパラシ郡を指すものとする。
- 2) 2010年から、ユネスコ文化遺産保全日本信託基金を活用して、考古学・遺跡保存・都市計画の国際合同専門家チームによる統合的マネジメントプラン策定の取組が行われている。現在フェーズ2(2014.7より3年間)ルンビニ地域で調査が進められている。
- 3) 森朋子・黒瀬武史(2014)「ネパール・ルンビニにおける世界遺産登録を契機とした文化遺産保全の実態と展望-アジアの途上国における文化遺産保全に関する研究-」、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、pp.737-738
- 4) Fuhrer, A. (1896). A Comparative evaluation of the EIA systems in Egypt, Turkey and Tunisia. Environmental Impact Assessment Review, 22: 213-234.
- 5) Mukherji, P.C. (1899). Antiquities in the tarai, Nepal, the region of Kapilavastu. Office of the superintendent of Government printing, India
- 6) Mitra, D. (1972). Excavations at Tilaura-kot and Kodan and Explorations in the Nepalese Tarai. Department of Archaeology, Government of Nepal.
- 7) Rijal, B. K. (1973). Excavation, Exploration and Other Archaeological Activities in Tilaurakot: 1972-1973. Ancient Nepal, 22-06: 60-71.
- 8) Mishra, T. N.(1977). Tilaurakot Excavations (2023-2029 V.S.). Ancient Nepal, 41-42:11-31.
- 9) Verardi, G.(2007). Excavations at Gotihawa and Pipri, Kapilbastu District, Nepal. ISIAO-ROMA.
- 10) Kapilvastu Municipality Office (2012), Periodic Plan of Kapilvastu Municipality Final Report

\*1 東京大学先端科学技術研究センター 助教・博士(工学)

\*2 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 助教・工修

\*3 東京大学先端科学技術研究センター 教授・工博

Assistant Prof., Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, Dr. Eng.

Assistant Prof., Dept. of Urban Engineering, Graduate school of Engineering, Univ. of Tokyo

Prof., Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, Dr. Eng.